



オーベクス株式会社

2025年3月期第2四半期（中間期） 決算補足説明資料

2024年11月8日



01 — 会社概要

02 — 事業内容

03 — 2025年3月期第2四半期（中間期）決算概要

04 — 中期経営計画

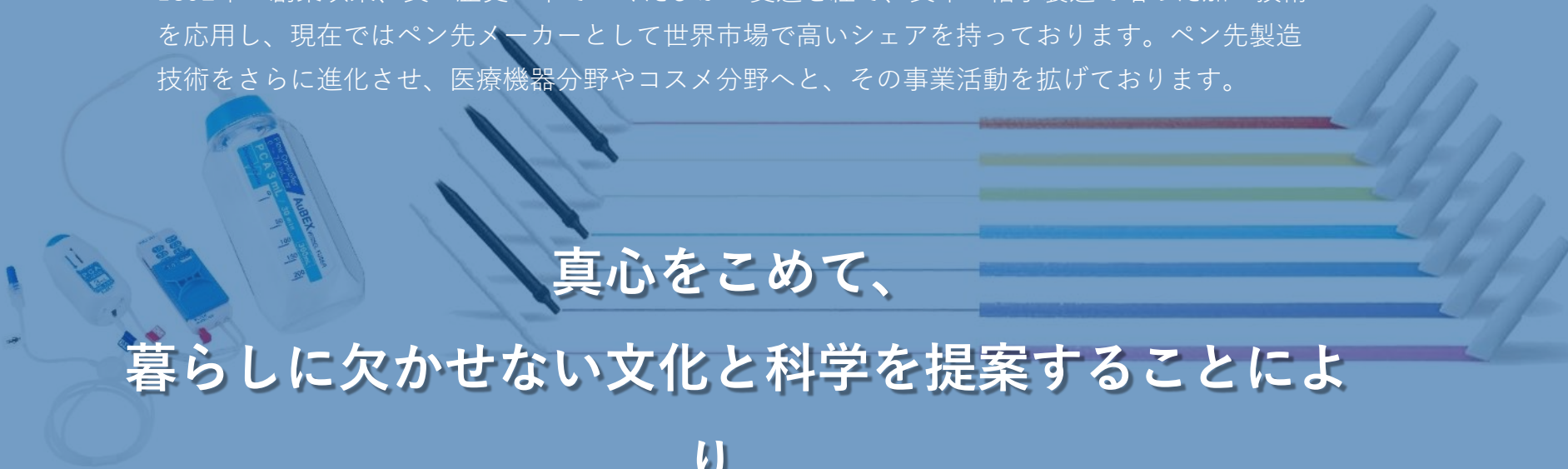
05 — サステナビリティについて

06 — 配当について

商号	オーベクス株式会社
資本金	19億3,983万円
代表者	代表取締役社長 栗原 則義
創立	1892年（明治25年）12月12日
設立	1893年（明治26年）12月29日
本社	〒130-0026 東京都墨田区両国4-31-11 ヒューリック両国ビル9F
連絡先	TEL：03-6701-3200(代) / FAX：03-6701-3023
事業内容	【テクノ製品】 サインペン先、コスメチック用ペン先の製造販売 【メディカル製品】 医療機器の製造販売
従業員数	129名（連結 343名） ※2024年3月31日現在
グループ企業	オーベクステクノロジー株式会社 オーベクスメディカル株式会社 天津奥貝庫斯技研有限公司

当社は、近代日本資本主義の父といわれる渋沢栄一が設立した会社です。1892年（明治25年）に舶来山高帽子の国産化を目的とする東京帽子株式会社として創業し、1985年（昭和60年）に現在のオーベクス株式会社に社名を変更しております。

1892年の創業以来、長い歴史の中でいくたびかの変遷を経て、長年の帽子製造で培った加工技術を応用し、現在ではペン先メーカーとして世界市場で高いシェアを持っております。ペン先製造技術をさらに進化させ、医療機器分野やコスメ分野へと、その事業活動を拡げております。



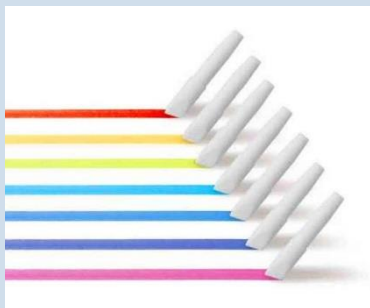
真心をこめて、
暮らしに欠かせない文化と科学を提案することにより、
豊かな社会づくりに貢献できる企業を目指します。

テクノ製品事業の売上構成比率は72.7%

- 主力製品は、サインペン先などの筆記具関連とアイライナー用ペン先などのコスメチック関連、
その他スタイラス用ペン先などの PC 周辺関連や芳香剤用芯などを取り扱っています。

ペン先製品の特徴

1950年代からフェルトペン先の供給を開始して以来、ポリエステル繊維、ナイロン繊維、アクリル繊維、エンジニアリングプラスチック等を原料としたペン先の生産を行っており、長年積み重ねてきた信頼性と技術開発力は、高い評価をいただき、世界各国の有名筆記具メーカーにご採用いただいております。



コスメ用製品の特徴

ペン先製造で長年積み重ねてきた信頼性と技術開発力は、コスメチックフィールドに活かされ、高い評価をいただいております。

しなやかなチップが特徴のアイライナー用を始め、アイブ로우用、リップライナー用、ネイルケア用、ネイルアート用など、メイク用からケア用まで幅広いバリエーションでご要望にお応えしております。

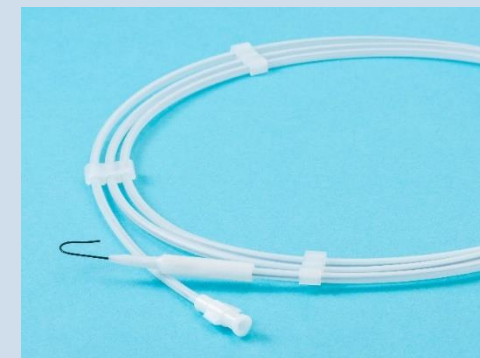


メディカル製品事業の売上構成比率は27.3%

- 主力製品は、自社開発の流量制御チューブを採用した加圧式医薬品注入器と操作性を追求した親水性ガイドワイヤー、その他医療用部材を取り扱っています。

メディカル製品の特徴

当社の流量制御技術から生まれた加圧式医薬品注入器は、フローコントローラーと制御チューブを組み合わせることで、他社にはない多段階の切替が可能です。これにより流量を1時間あたり、0.5mLからコントロールすることが可能です。循環器科・心臓血管・冠動脈造影・カテーテル造影検査に特化したガイドワイヤーは、独特の先端形状により、主血管から側枝血管への迷入を軽減させ、親水性ポリマーコーティングで摩擦抵抗を少なくし、操作性を高めています。安全性・機能性を追求し、それぞれの医療シーンに合わせたラインナップで患者様のQOL（quality of life）の向上に貢献しています。



決算サマリー

連結売上高 14.1%増収 営業利益 81.0%増益

- グループ技術を結集した新製品開発への取組みを強化
- テクノ製品事業では、中国を含むアジア地域と国内の売上が伸長
- メディカル製品事業では、積極的なプロモーション活動と販売活動に注力

売上高

売上高は、テクノ製品事業、メディカル製品事業とも好調に推移し、14.1%増の2,991百万円。

前年同期比 +14.1%

29.9億円

営業利益

営業利益は、テクノ製品事業におけるアジア地域の販売増と付加価値の高い製品の売上が伸長し、81.0%増の488百万円。

前年同期比 +81.0%

4.8億円

テクノ製品事業

売上高

21.7億円

前年同期比 +14.3%

セグメント利益

5.9億円

前年同期比 +56.7%

メディカル製品事業

売上高

8.1億円

前年同期比 +13.4%

セグメント利益

0.6億円

前年同期比 +34.9%

損益計算書（P/L）

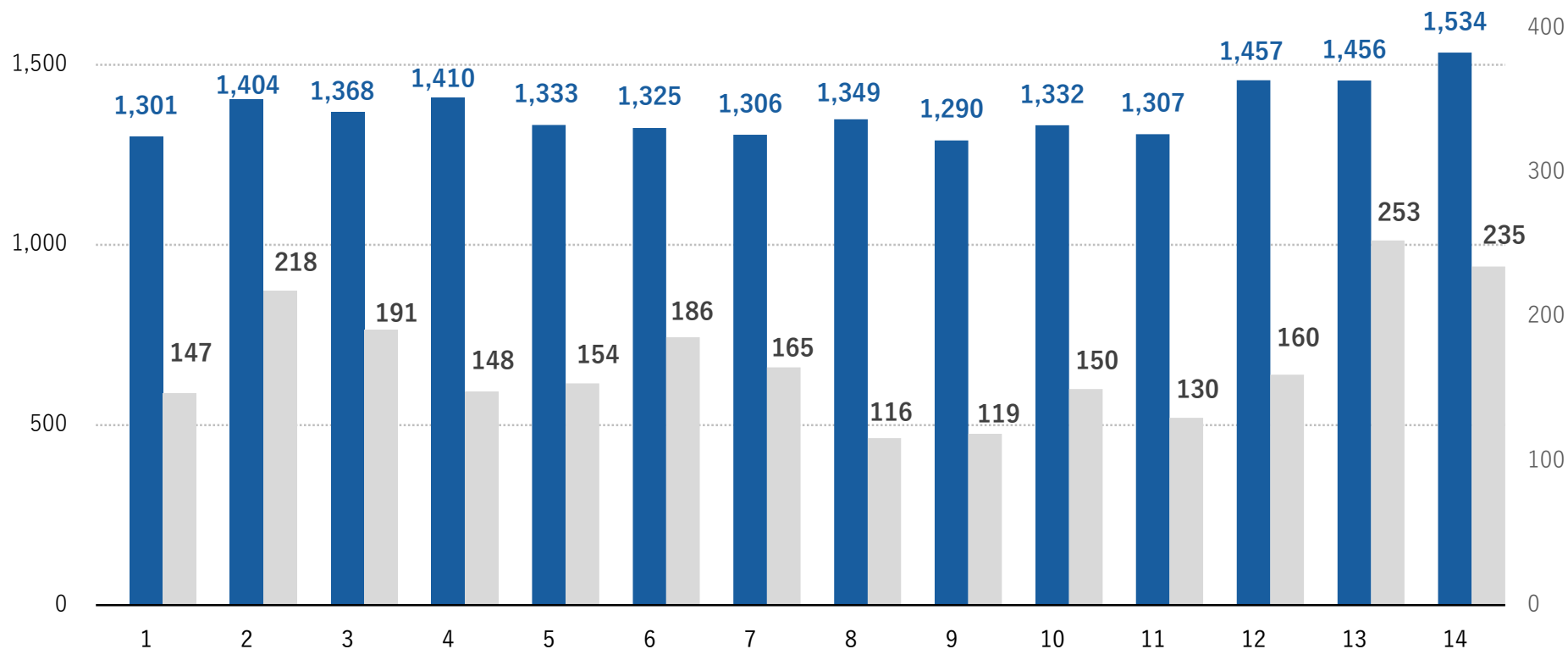
- ・売上高は、テクノ製品事業、メディカル製品事業ともに好調に推移し、14.1%増の2,991百万円。
- ・営業利益は、テクノ製品事業におけるアジア地域での販売増と付加価値の高い製品の売上が伸長し、81.0%増の488百万円。
- ・営業利益率は、16.3%となり、前年同期比で6.0ポイント増加。

	2024年3月期				2025年3月期	前年同期比
	第1四半期	第2四半期 累計期間	第3四半期 累計期間	通期	第2四半期 累計期間	
売上高	1,290	2,622	3,929	5,387	2,991	+14.1%
営業利益	119	269	400	560	488	+81.0%
経常利益	135	293	417	600	453	+54.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	109	217	297	436	302	+39.0%

売上高・営業利益の四半期推移

■ 売上高 ■ 営業利益

（百万円）



2022年3月期

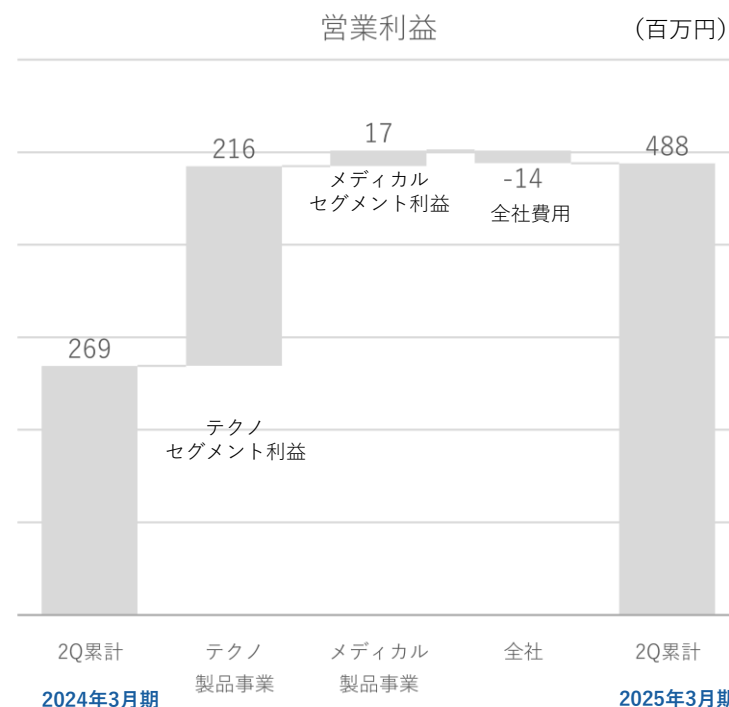
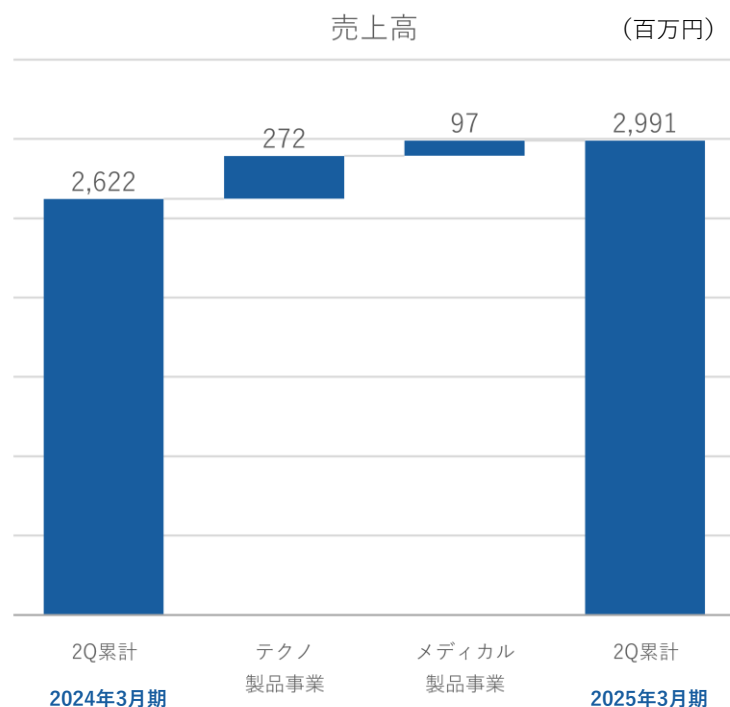
2023年3月期

2024年3月期

2025年3月期

売上高・営業利益の増減要因

- ・売上高は、テクノ製品事業の主力製品である筆記具関連が好調に推移したことに加え、メディカル製品事業ではシェア拡大に向けた販売活動に注力した結果、前年同期比で369百万円増加。
- ・営業利益は、全社費用は増加したものの、テクノ製品事業におけるアジア地域での販売増と付加価値の高い製品の売上が伸長した結果、前年同期比で218百万円増加。



セグメント別状況

テクノ製品事業 | 中国を含むアジア地域の売上は好調に推移。主力製品の筆記具関連の売上が伸長。

メディカル製品事業 | 積極的なプロモーション活動の展開により、売上は好調に推移。

(百万円)

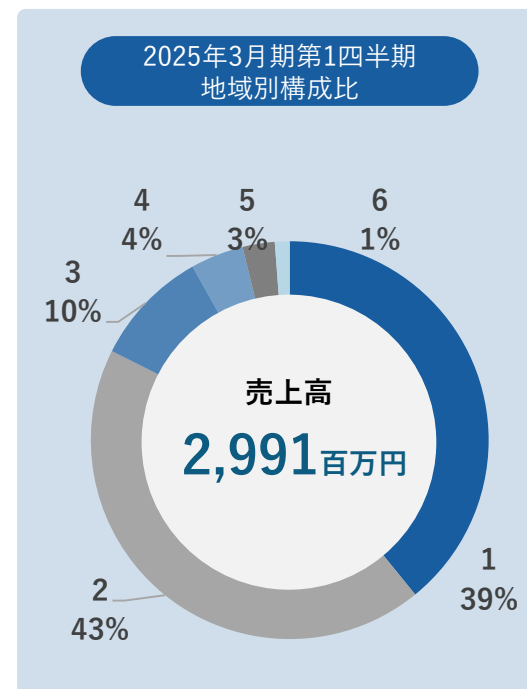
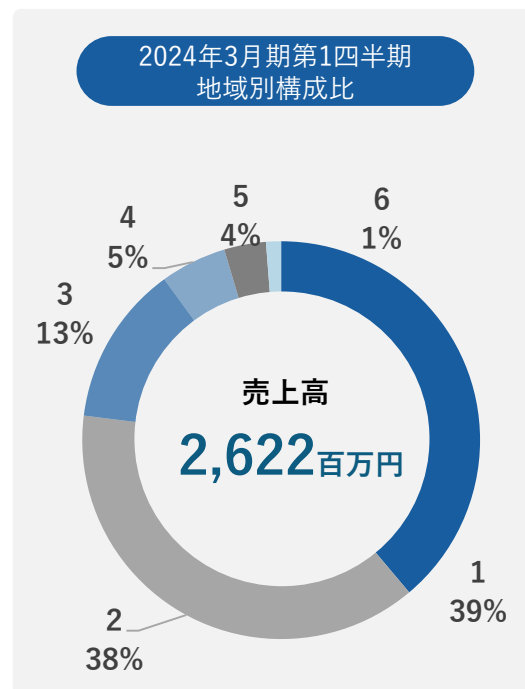
	2024年3月期 第2四半期累計期間		2025年3月期 第2四半期累計期間		前年同期比 (%)	
	売上高	セグメント 利益	売上高	セグメント 利益	売上高	セグメント 利益
テクノ製品事業	1,902	381	2,174	598	+14.3	+86.7
メディカル製品事業	720	48	816	65	+13.4	+34.9

地域別売上状況

欧州、北米地域の売上は低調に推移したものの、日本国内および中国を含むアジア地域の売上が好調に推移。

（百万円）

	2024年3月期 第2四半期 累計期間	2025年3月期 第2四半期 累計期間	前年同期比 増減率(%)
日本	1,018	1,169	+14.8
アジア	998	1,292	+29.5
欧州	341	283	△17.0
北米	141	129	△8.4
中南米	89	78	△11.4
その他	32	36	+10.7
合計	2,622	2,991	+14.1



キャッシュフロー

- ・当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物は、292百万円減少し、2,548百万円。
- ・営業活動によるキャッシュ・フローは、312百万円の資金の増加。
- ・投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預入や有形固定資産の取得等により202百万円の資金の減少。
- ・財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済等により391百万円の資金の減少。

(百万円)

	2024年3月期 第2四半期累計期間	2025年3月期 第2四半期累計期間
営業活動によるCF	601	312
投資活動によるCF	△99	△202
財務活動によるCF	△138	△391
現金及び現金同等物の増減額	370	△292
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,758	2,548

貸借対照表（B/S）

（百万円）

資産の部	2024年3月期	2025年3月期 第2四半期	増減
流動資産	6,342	6,320	△22
固定資産	3,378	3,304	△74
有形固定資産	3,062	3,008	△53
無形固定資産	30	28	△2
投資その他の資産	285	267	△18
資産合計	9,721	9,625	△96

（百万円）

負債・純資産の部	2024年3月期	2025年3月期 第2四半期	増減
流動負債	1,748	1,570	△178
固定負債	1,716	1,545	△170
負債合計	3,465	3,115	△349
株主資本	6,067	6,329	262
資本金	1,939	1,939	–
資本剰余金	518	518	–
利益剰余金	3,810	4,050	240
自己株式	△201	△179	21
その他の包括利益累計額	189	179	△9
純資産合計	6,256	6,509	252
負債純資産合計	9,721	9,625	△96

2025年3月期
第2四半期自己資本比率
67.6%流動比率
402.6%固定比率
50.8%

業績予想の修正（2024年11月8日発表）

- 当第2四半期（中間期）連結会計期間における業績の進捗状況を勘案し、当社が関連する業界の動向を踏まえ見直しを行った結果、2025年3月期の通期連結業績予想を売上高6,100百万円、営業利益830百万円、経常利益800百万円、親会社株主に帰属する当期純利益560百万円に修正しました。

(百万円)

	2023年3月期 (実績)	2024年3月期 (実績)	2025年3月期 (予想) 2024年5月8日発表	2025年3月期 (修正予想) 2024年11月8日発表	2025年3月期 第2四半期累計期間 (実績)	修正予想に 対する進捗率
売上高	5,315	5,387	5,700	6,100	2,991	49.0%
営業利益	623	560	630	830	488	58.9%
経常利益	639	600	610	800	453	56.7%
親会社株主に帰属 する当期純利益	469	436	460	560	302	54.0%

第8次中期経営計画 オーベクスビジョン2024（2022年度～2024年度）

- 基本方針 新市場（スタンダード市場）において持続的成長と企業価値向上を具現化する
- スローガン 「Change + Update “チェンジ プラス アップデート”」
- グループ基本戦略
 - ① 既存事業強化による事業拡大と持続的成長に向けた設備投資
 - ② 技術を結集した新製品開発および新分野への展開
 - ③ スタンダード市場の上場維持基準適合への取組み推進
 - ④ 多様で柔軟な働き方と環境負荷低減活動の推進

最終年度 定量目標（連結）

設備投資（3ヶ年合計）

売上高

63 億円

営業利益

8.3 億円

設備投資

10 億円

サステナビリティへの取組

当社の創業者である渋沢栄一翁の経営哲学「道德経済合一説」（仁義道德と生産殖利とは元来ともに進むべきもの）は、持続可能な社会を目指すものであります。その精神を受継ぐ当社は、「真心をこめて、暮らしに欠かせない文化と科学を提案することにより、豊かな社会づくりに貢献できる企業を目指します。」を経営理念に掲げ、「オーベクスグループ行動規範」を定めるとともにリスクマネジメント方針をはじめとする各方針を策定しております。環境問題、社会的課題への対応を経営課題の重要事項のひとつと位置付け、ESG経営を推進することで持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

環境 Environment

大気汚染対策 廃棄物対策
環境に配慮した製品開発



社会 Social

働き甲斐のある職場環境 人財育成
人権の尊重 地域社会への貢献



ガバナンス Governance

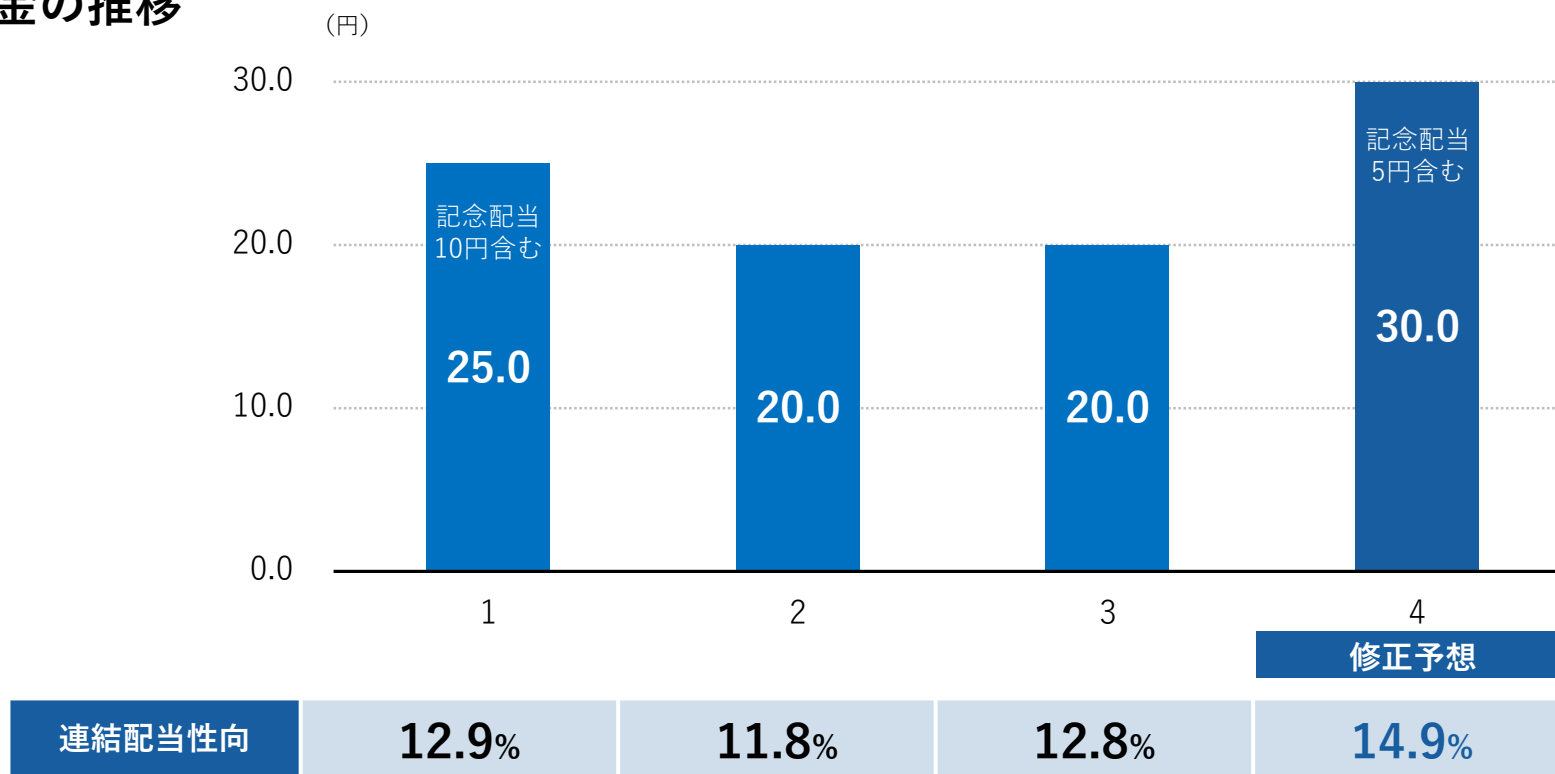
コンプライアンス（法令と社会規範の遵守）
積極的な情報開示 リスク管理



配当予想の修正（2024年11月8日発表）

利益配分に関しましては、株主の皆様への利益還元を最重要課題の一つと考えており、将来に向けた研究・開発、設備投資等を行うための内部留保の充実を図りつつ、中長期的視野に立って収益に対応した安定配当を行うことを基本方針としております。2024年11月8日発表の通期業績予想の上方修正および配当方針に基づき、2024年5月8日に開示しております期末配当予想25円に5円増配して、1株当たり30円に修正いたしました。

配当金の推移



本資料のお取り扱い上の注意

本資料に記載された見解や見通し、ならびに予測等は資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。
様々な要因により、今後の業績は本資料の内容と異なるものとなる可能性があります。また、本資料は当社をご理解いただくために作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません

IRに関するお問い合わせ

https://www.aubex.co.jp/contact_request/

オーベクス株式会社

コーポレートサイト <https://www.aubex.co.jp/>